

令和 8 年度

シ ラ バ ス

SYLLABUS

理学療法学科 2 年生



健祥会学園  
KENSHOKAI GAKUEN

# 目 次

## カリキュラム

### 専門基礎分野(理学・作業療法学科)

|               |    |
|---------------|----|
| 運動学Ⅱ .....    | 1  |
| 一般臨床医学Ⅰ ..... | 2  |
| 一般臨床医学Ⅱ ..... | 3  |
| 内科学Ⅰ .....    | 5  |
| 内科学Ⅱ .....    | 6  |
| 神経内科学.....    | 7  |
| 脳神経外科学.....   | 8  |
| 精神医学Ⅰ .....   | 9  |
| 整形外科学Ⅰ .....  | 10 |
| 整形外科学Ⅱ .....  | 12 |
| 小児科学 .....    | 14 |

### 専門分野(理学療法学科)

|                  |    |
|------------------|----|
| 基礎理学療法学Ⅱ .....   | 15 |
| 基礎理学療法学Ⅲ.....    | 16 |
| 理学療法評価学Ⅱ .....   | 17 |
| 理学療法評価学演習 .....  | 18 |
| 神経系障害理学療法学 ..... | 19 |
| 神経系障害理学療法学 ..... | 20 |
| 筋骨格系障害理学療法学..... | 21 |
| 筋骨格系障害理学療法学..... | 22 |
| 内部障害系理学療法学 ..... | 23 |
| 内部障害系理学療法学 ..... | 24 |
| 発達障害系理学療法学 ..... | 25 |
| 物理療法学.....       | 27 |
| 物理療法学.....       | 28 |
| 義肢装具学.....       | 29 |
| 義肢装具学.....       | 30 |
| 日常生活活動学 .....    | 31 |
| 日常生活活動学 .....    | 33 |
| 臨床理学療法学演習Ⅰ ..... | 35 |
| 地域理学療法学総論 .....  | 36 |
| 地域理学療法学各論.....   | 37 |
| 基礎評価実習 .....     | 39 |
| 臨床評価実習 .....     | 40 |

# 專 門 基 礎 分 野

理学療法学科

作業療法学科

【科目名】運動学Ⅱ

【教員名】奥野 剛史、松浦 康

【教員の実務経験】☐有

■無(作業療法士・理学療法士免許及び経験を有する教員が、運動学に必要な内容に関する講義を行う。)

【授業方法】■講義 ☐演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】人間の動作や運動に関わる人体の解剖学的構造と神経生理学的機能、生体力学的変数と臨床上的問題との関係を習得し、理学療法・作業療法に応用できるように理解を深める。

【到達目標】学生は人体の構造や機能と身体運動との関係、特に疾病あるいは機能障害による機能的制限及び障害を学び理学療法・作業療法における臨床的応用の修得ができる。

【教科書】資料配付

【参考書等】

中村隆一ほか著：基礎運動学 第7版. 医歯薬出版, 2025.

小柳磨毅ほか編：PT・OTのための運動学テキスト. 金原出版, 2015.

【成績評価】■定期試験(100%) ☐小テスト ☐課題レポート ☐その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ    | 授 業 内 容                                    | 教員名   |
|----|--------|--------------------------------------------|-------|
| 1  | 姿勢①    | 姿勢とは(防御反応と姿勢戦略)                            | 松浦 康  |
| 2  | 姿勢②    | 各疾患における異常姿勢について理解する。                       | 〃     |
| 3  | 基本動作①  | 各基本動作の戦略を理解する。                             | 〃     |
| 4  | 基本動作②  | 各基本動作のバイオメカニクスを理解する。                       | 〃     |
| 5  | 歩行①    | 歩行の基礎                                      | 〃     |
| 6  | 歩行②    | 歩行のバイオメカニクス①                               | 〃     |
| 7  | 動作分析①  | 基本動作の分析①                                   | 〃     |
| 8  | 動作分析②  | 基本動作の分析②                                   | 〃     |
| 9  | 神経生理学① | 神経生理学の基礎(脳の可塑性とシナプス変化について)                 | 奥野 剛史 |
| 10 | 神経生理学② | 身体運動と中枢神経機構について(脳の可塑性と運動学習概論)              | 〃     |
| 11 | 運動制御理論 | 脳幹部における運動制御システムについて(随意運動と反射の理解)            | 〃     |
| 12 | 運動学習①  | 古典的運動制御仮説による運動学習について(FeedbackとFeedforward) | 〃     |
| 13 | 運動学習②  | 計算神経科学による運動学習について(関節Stiffnessの影響)          | 〃     |
| 14 | 反復効果   | 運動学習における臨床的応用について(反復促進療法からの考察)             | 〃     |
| 15 | エビデンス  | 運動とリハビリテーションについて(Neuro-Rehabilitationを中心に) | 〃     |

【授業時間外の学習】授業実施日に復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。予習及び復習に各1時間程度を要する、

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された資料及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】一般臨床医学Ⅰ

【教員名】川浦 昭彦、武田 明日香

【教員の実務経験】■有(実務経験のある医師が理学療法士・作業療法士に必要な医療の基礎の講義を行う。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】理学療法学科と作業療法学科の学生が、臨床に関する基礎知識として内科系及び外科系の疾患について知り、理解できるようになることを目的とする。本講義では各専門領域の講師により教書に準じて行われる。これらを学習することは頻度の高い疾患の概念、病因、症状、診断法及び治療法について理解するために重要である。

【到達目標】

1. 医学用語を理解することができる。
2. 内科系及び外科系疾患の病因、病態生理、診断法、治療について理解することができる。

【教科書】平岡崇、椿原彰夫編：PT・OT・STのための一般臨床医学 第4版. 医歯薬出版, 2026.

【参考書等】臨床各科の参考書は図書室に備えてある。  
伊藤正男ほか編：医学大辞典 第2版. 医学書院, 2009.

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ          | 授業内容                           | 教員名    |
|----|--------------|--------------------------------|--------|
| 1  | 婦人科の基礎的事項    | 婦人科領域の解剖・生理などの基礎的事項について学習する。   | 武田 明日香 |
| 2  | 婦人科疾患        | 婦人科領域疾患の病態や症状、予防や治療について学習する。   | 〃      |
| 3  | 産科の基礎的事項     | 産科全般の基礎的事項について学習する。            | 〃      |
| 4  | 眼科疾患         | 解剖生理、臨床検査法、眼の症状と徴候、感染症、ブドウ膜炎など | 川浦 昭彦  |
| 5  | 耳鼻咽喉科疾患(1)   | 耳の構造と生理、症状・病態生理、鼻の構造、病態生理・症状など | 〃      |
| 6  | 耳鼻咽喉科疾患(2)   | 口腔・咽頭・喉頭の解剖、症状、病態生理、検査、疾患など    | 〃      |
| 7  | 泌尿器・生殖器疾患(1) | その1(解剖、生理、診断・検査法など)            | 〃      |
| 8  | 泌尿器・生殖器疾患(2) | その2(生殖器の腫瘍、男子性機能障害、副腎疾患など)     | 〃      |
| 9  | 外科総論         | 末梢血管障害、腫瘍、臓器移植など               | 〃      |
| 10 | 脳神経外科総論      | 解剖、脳の主な病態生理、補助検査法など            | 〃      |
| 11 | 〃            | 主な疾患：頭部外傷、脳血管障害、水頭症、脳腫瘍、感染症    | 〃      |
| 12 | 皮膚科疾患一(1)    | 解剖、生理、症状、病態生理、湿疹、皮膚炎           | 〃      |
| 13 | 皮膚科疾患一(2)    | 紫斑症、角化症、母斑など                   | 〃      |
| 14 | 皮膚科疾患一(3)    | 紅皮症、中毒疹、薬疹など                   | 〃      |
| 15 | 老年医学         | 高齢者ケアの基本原則、高齢者によくみられる疾患        | 〃      |

【授業時間外の学習】その日のうちに、復習をおこない、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るために、予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。理由のない遅刻や欠席は認めない。

【オフィスアワー】川浦：火～金曜日の16時30分から17時30分(本館事務室前)

【科目名】一般臨床医学Ⅱ

【教員名】川浦 昭彦、武田 英二、高尾 正一郎

【教員の実務経験】■有(実務経験のある医師が理学療法士・作業療法士に必要な医療の基礎の講義を行う。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・作業療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】リハビリテーションを学ぶ前に、画像の読影を含む放射線医学、薬理学、栄養学、救命救急などを学習することは臨床医学の基礎を理解することにつながる。すなわち、各疾患の画像陰影変化や病気に対する薬物、栄養療法の治療メカニズムなどを理解することを目的にする。さらに、リハビリテーション中に救命救急的処置が必要な事例に遭遇した場合、的確に対処できるようにする。学生がこのように学習することは、患者さんにおけるPT、OTの役割と位置づけを学び他のコメディカルの職種との連携を考えるために重要である。

【到達目標】臨床医学における基礎的な診断、治療の1つである画像診断学、薬理学、栄養学、救命救急医療の内容を理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。臨床医学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得できる。

【教科書】

平岡崇，椿原彰夫編：PT・OT・STのための一般臨床医学 第4版．医歯薬出版，2026．

北村諭編集：コメディカルのための専門基礎分野テキスト 内科学 改訂8版．中外医学社，2024．

【参考書等】黒山政一，香取祐介著：初めの一步は絵で学ぶ 薬理学 第2版．じほう，2019．

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ      | 授業内容                                                              | 教員名    |
|----|----------|-------------------------------------------------------------------|--------|
| 1  | 薬理学      | 薬理学の基礎知識(薬の効果と毒性、薬の作用と作用点など)                                      | 川浦 昭彦  |
| 2  | 感染症(1)   | 総論(感染・感染症の成立、病原体の感染経路、感染症の臓器別分類)各論(ウイルス感染症、細菌感染症、スピロヘータ感染症、原虫症など) | 〃      |
| 3  | 感染症/救命救急 | 寄生虫疾患/<br>心肺蘇生法、ショック、呼吸管理、中心静脈栄養                                  | 〃      |
| 4  | 救命救急     | 輸血療法、救急処置、ICUの役割                                                  | 〃      |
| 5  | 神経疾患(1)  | 総論[構造と機能、神経疾患の症状、神経疾患の検査]                                         | 〃      |
| 6  | 神経疾患(2)  | 各論(1)[脳血管障害、慢性硬膜下血腫など]                                            | 〃      |
| 7  | 神経疾患(3)  | 各論(2)[髄膜炎、脳腫瘍など]                                                  | 〃      |
| 8  | 神経疾患(4)  | 各論(3)[多発性硬化症、Bell麻痺など]                                            | 〃      |
| 9  | 栄養学      | 食事(献立)とは、糖質・脂質・たんぱく質について                                          | 武田 英二  |
| 10 | 〃        | ビタミン・ミネラルについて、健康と運動に必要なエネルギー                                      | 〃      |
| 11 | 〃        | 経腸栄養、静脈栄養                                                         | 〃      |
| 12 | 〃        | 食物繊維、食生活と健康、偏食・孤食・欠食、胎児の栄養                                        | 〃      |
| 13 | 画像診断学    | 頭部画像診断における検査法、画像解剖および代表的疾患の画像所見                                   | 高尾 正一郎 |
| 14 | 〃        | 胸部画像診断における検査法、画像解剖および代表的疾患の画像所見                                   | 〃      |
| 15 | 〃        | 腹部画像診断における検査法、画像解剖および代表的疾患の画像所見、その他                               | 〃      |

【授業時間外の学習】その日のうちに、復習をおこない、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るために、予習及び復習には、各2

時間程度を要する。

**【履修条件・注意事項】**講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢（私語や受講態度）については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。理由のない遅刻や欠席は認めない。

**【オフィスアワー】**

川浦：火～金曜日の 16 時 30 分から 17 時 30 分(本館事務室前)

武田：月～木曜日の 16 時 30 分から 17 時 30 分(校長室)

【科目名】内科学Ⅰ

【教員名】川浦 昭彦

【教員の実務経験】■有(実務経験のある医師が理学療法士・作業療法士に必要な医療の基礎の講義を行う。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】内科的疾患を学ぶ前に、総論では各臓器の解剖生理学的なポイントを理解する。各論では病気がどのようなメカニズムから生じたのか、さらにそれらの疾患の身体機能や生命の予後はどのような経過を辿るのかを理解する。学生がこのような目的をもって学習することは、患者さんにおけるPT、OTの役割と位置づけを学び、他のコメディカルの職種との連携を考えるために重要である。

【到達目標】内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得できる。

【教科書】北村論編集：コメディカルのための専門基礎分野テキスト 内科学 改訂8版. 中外医学社, 2024.

【参考書等】なし

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ      | 授業内容                            | 教員名   |
|----|----------|---------------------------------|-------|
| 1  | 内科概論     | 総論[内科学と、その進歩、老化、加齢、疾病など]        | 川浦 昭彦 |
| 2  | 呼吸器疾患(1) | 総論[構造と機能、主要症状など]                | 〃     |
| 3  | 呼吸器疾患(2) | 各論(1)[感染性呼吸器疾患など]               | 〃     |
| 4  | 呼吸器疾患(3) | 各論(2)[気道性閉塞疾患など]                | 〃     |
| 5  | 呼吸器疾患(4) | 各論(3)[腫瘍性肺疾患、胸膜の疾患、アレルギー性肺疾患など] | 〃     |
| 6  | 消化器疾患(1) | 総論[構造と機能、主要症状、消化器疾患の検査など]       | 〃     |
| 7  | 消化器疾患(2) | 各論(1)[食道疾患、胃・十二指腸疾患など]          | 〃     |
| 8  | 消化器疾患(3) | 各論(2)[小腸・大腸疾患など]                | 〃     |
| 9  | 肝胆膵疾患(1) | 総論[肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能など]            | 〃     |
| 10 | 肝胆膵疾患(2) | 総論/各論(1)[急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝腫瘍など]   | 〃     |
| 11 | 肝胆膵疾患(3) | 各論(2)[慢性膵炎、膵腫瘍、腹膜炎など]           | 〃     |
| 12 | 循環器疾患(1) | 総論[構造と機能、大循環、小循環など]             | 〃     |
| 13 | 循環器疾患(2) | 各論(1)[心不全、高血圧、虚血性心疾患、不整脈など]     | 〃     |
| 14 | 循環器疾患(3) | 各論(2)[心弁膜疾患、先天性疾患など]            | 〃     |
| 15 | 循環器疾患(4) | 各論(3)[心筋、心膜、大動脈疾患など]            | 〃     |

【授業時間外の学習】その日のうちに、復習をおこない、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るために、予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。理由のない遅刻や欠席は認めない。

【オフィスアワー】火～金曜日 16時30分から17時30分(本館事務室前)

【科目名】内科学Ⅱ

【教員名】川浦 昭彦

【教員の実務経験】■有(実務経験のある医師が理学療法士・作業療法士に必要な医療の基礎の講義を行う。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】内科的疾患を学ぶ前に、総論では各臓器の解剖生理学的なポイントを理解する。各論では病気がどのようなメカニズムから生じたのか、さらにそれらの疾患の身体機能や生命の予後はどのような経過を辿るのかを理解する。学生がこのような目的をもって学習することは、患者さんにおける PT、OT の役割と位置づけを学び他のコメディカルの職種との連携を考えるために重要である。

【到達目標】広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では学生が内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得できることを到達目標とする。

【教科書】北村諭編集:コメディカルのための専門基礎分野テキスト 内科学 改訂8版. 中外医学社, 2024.

【参考書等】なし

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ              | 授業内容                         | 教員名   |
|----|------------------|------------------------------|-------|
| 1  | 代謝疾患(1)          | 総論[糖質、蛋白質、脂質の代謝、ビタミン、電解質など]  | 川浦 昭彦 |
| 2  | 代謝疾患(2)          | 各論[肥満症、やせ、糖尿病、脂質異常症、痛風、骨粗鬆症] | 〃     |
| 3  | 内分泌疾患(1)         | 総論[内分泌腺の種類・作用機序、視床下部、下垂体など]  | 〃     |
| 4  | 内分泌疾患(2)         | 各論(1)[間脳疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患]      | 〃     |
| 5  | 内分泌疾患(3)         | 各論(2)[副甲状腺疾患、副腎疾患]           | 〃     |
| 6  | 腎泌尿器疾患(1)        | 総論[構造と機能、主要症状、腎疾患の検査]        | 〃     |
| 7  | 腎泌尿器疾患(2)        | 各論(1)[慢性腎臓病、腎不全など]           | 〃     |
| 8  | 腎泌尿器疾患(3)        | 各論(2)[ネフローゼ症候群、急性腎炎症候群など]    | 〃     |
| 9  | 腎泌尿器疾患(4)        | 各論(3)[尿路感染症、尿路結石症、その他腎疾患など]  | 〃     |
| 10 | 膠原病アレルギー・免疫不全(1) | 総論[膠原病とは、膠原病の種類、症状など]        | 〃     |
| 11 | 膠原病アレルギー・免疫不全(2) | 各論[関節リウマチ、全身性エリテマトーデスなど]     | 〃     |
| 12 | 血液造血器疾患(1)       | 総論[血液の組成など]、各論(1)[赤血球系の疾患]   | 〃     |
| 13 | 血液造血器疾患(2)       | 各論(2)[赤血球系の疾患の続き、白血球系の疾患など]  | 〃     |
| 14 | 血液造血器疾患(3)       | 各論(3)[リンパ網内系疾患、異常蛋白血症]       | 〃     |
| 15 | 血液造血器疾患(4)       | 各論(4)[出血性疾患]                 | 〃     |

【授業時間外の学習】その日のうちに、復習をおこない、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るために、予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。理由のない遅刻や欠席は認めない。

【オフィスアワー】火～金曜日 16時30分から 17時30分(本館事務室前)

【科目名】神経内科学

【教員名】奥野 剛史

【教員の実務経験】☐有

☒無(作業療法士免許及び経験を有する教員が、神経系疾患の基礎について教授する。)

【授業方法】☒講義 ☐演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】神経内科学の学習を通して、神経疾患の原因と病態生理を理解するとともに、診断と治療等を知り、リハビリテーション(PT、OT)の役割について学ぶことを目的とする。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

学生は、神経疾患の症候と病態生理を理解できる。

学生は、主な神経疾患の診断と治療を理解できる。

学生は、リハビリテーションとの関連事項を理解する。

【教科書】

資料配付および配信

川平和美編集：標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第6版. 医学書院, 2024.

【参考書等】医療情報科学研究所編集:病気が見える vol. 7 脳・神経 第2版. メディックメディア, 2017.

【成績評価】☒定期試験(100%) ☐小テスト ☐課題レポート ☐その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ      | 授 業 内 容                                    | 教員名   |
|----|----------|--------------------------------------------|-------|
| 1  | 脳神経内科の基礎 | 中枢神経系の解剖と機能について教授する。                       | 奥野 剛史 |
| 2  | 神経症候学    | 中枢神経系疾患の障害について教授する。                        | 〃     |
| 3  | 高次脳機能障害① | 失語症の病理・病態について教授する。                         | 〃     |
| 4  | 高次脳機能障害② | 失認の病理・病態について教授する。                          | 〃     |
| 5  | 高次脳機能障害③ | 失行の病理・病態について教授する。                          | 〃     |
| 6  | 高次脳機能障害④ | 記憶障害の病理・病態について教授する。                        | 〃     |
| 7  | 高次脳機能障害⑤ | 注意障害の病理・病態について教授する。                        | 〃     |
| 8  | 高次脳機能障害⑥ | 遂行機能障害の病理・病態について教授する。                      | 〃     |
| 9  | 神経疾患各論①  | 脊髄疾患の病理・病態について教授する。                        | 〃     |
| 10 | 神経疾患各論②  | 変性疾患と脱髄疾患(脊髄小脳変性症と多発性硬化症など)の病理・病態について教授する。 | 〃     |
| 11 | 神経疾患各論③  | 錐体外路の変性疾患(パーキンソン病など)の病理・病態について教授する。        | 〃     |
| 12 | 神経疾患各論④  | 末梢神経障害の病理・病態について教授する。                      | 〃     |
| 13 | 神経疾患各論⑤  | てんかんの病理・病態について教授する。                        | 〃     |
| 14 | 神経疾患各論⑥  | 神経筋疾患の病理・病態について教授する。                       | 〃     |
| 15 | まとめ      | 脳神経内科領域の治療とリハビリテーションの役割について教授する。           | 〃     |

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに、タブレットに配信された授業資料を基に、その内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書およびタブレットを持参すること。また、疑問点があれば積極的に質問をすること。なお、タブレットを必ず持参しなければ受講できない。

【オフィスアワー】毎月曜日 17時から17時30分まで(本館事務室前)

【科目名】脳神経外科学

【教員名】坂東 一彦

【教員の実務経験】■有(実務経験のある医師が理学療法士・作業療法士に必要な医療の基礎の講義を行う。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】脳神経外科の学習を通して、神経疾患の原因と病態生理を理解するとともに、診断と治療等について学ぶことを目的とする。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 神経疾患の症候と病態生理を理解できる。
2. 主な神経疾患の診断と治療を理解できる。
3. リハビリテーションとの関連事項を理解する。

【教科書】資料配付および配信

【参考書等】なし

【成績評価】■定期試験(70%) ■小テスト(30%) □課題レポート ■その他(10%:2回目の授業以降、毎回一人を指名し講義を予習したものを発表してもらうことで定期試験に5-10点を加算)

【授業計画】

| 回数 | テーマ              | 授業内容                              | 教員名   |
|----|------------------|-----------------------------------|-------|
| 1  | 解剖               | 脳外科領域の解剖について                      | 坂東 一彦 |
| 2  | 症状 1             | 意識障害、麻痺について                       | 〃     |
| 3  | 症状 2             | 感覚障害、脳ヘルニアについて                    | 〃     |
| 4  | 画像診断、検査          | MRI、CT などの画像診断について                | 〃     |
| 5  | 脳血管障害            | 脳血管障害の基礎について                      | 〃     |
| 6  | 脳梗塞              | 脳梗塞の診断、治療について                     | 〃     |
| 7  | 脳内出血、動脈瘤         | 脳内出血、動脈瘤の診断、治療                    | 〃     |
| 8  | AVM、モヤモヤ病        | 特殊な脳血管障害について                      | 〃     |
| 9  | 脳腫瘍              | 脳腫瘍の診断と治療                         | 〃     |
| 10 | 脱髄、髄液循環          | 脱髄性疾患、水頭症、髄液減少症                   | 〃     |
| 11 | 感染症              | 神経領域の感染症について                      | 〃     |
| 12 | 頭部外傷             | 硬膜外血腫、硬膜下血腫、脳挫傷                   | 〃     |
| 13 | 脊椎脊髄疾患<br>末梢神経障害 | 脊椎疾患、脊損について                       | 〃     |
| 14 | 神経疾患 1           | パーキンソン病、重症筋無力症、筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症 | 〃     |
| 15 | 神経疾患 2           | 認知症、てんかんなど                        | 〃     |

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに、タブレットに配信された授業資料を基に、その内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書およびタブレットを持参すること。また、疑問点があれば積極的に質問をすること。なお、タブレットを必ず持参しなければ受講できない。

【科目名】精神医学Ⅰ

【教員名】川畑 浩二

【教員の実務経験】☐有

☒無(精神科領域での経験を有する作業療法士の教員が、精神医学について講義を行う。)

【授業方法】☒講義 ☐演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】精神医学の概念と患者の理解や症状に対する知識を教授する。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 精神疾患の概念や症状についての理解を深める。
2. 精神疾患の分類やそれに応じた治療について理解できる。

【教科書】上島国利ほか編：精神医学テキスト 改訂第5版. 南江堂, 2023.

【参考書等】大熊輝雄著：現代臨床精神医学 改訂第12版. 金原出版株式会社, 2013.

【成績評価】☒定期試験(100%) ☐小テスト ☐課題レポート ☐その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ      | 授業内容                 | 教員名   |
|----|----------|----------------------|-------|
| 1  | 精神医学序論   | 精神医学の概念について教授する。     | 川畑 浩二 |
| 2  | 〃        | 精神科患者の処遇と歴史について教授する。 | 〃     |
| 3  | 精神科医療    | 精神医学の基礎知識について教授する。   | 〃     |
| 4  | 精神症状     | 精神科患者への接し方について教授する。  | 〃     |
| 5  | 〃        | 精神症状の捉え方について教授する。    | 〃     |
| 6  | 器質性精神障害  | 概念と認知症の概要について教授する。   | 〃     |
| 7  | 〃        | 概念と認知症の各論について教授する。   | 〃     |
| 8  | てんかん①    | てんかんの概念について教授する。     | 〃     |
| 9  | てんかん②    | てんかんの症状学について教授する。    | 〃     |
| 10 | 依存症      | 精神作用物質の概念について教授する。   | 〃     |
| 11 | アルコール依存症 | アルコール依存症の概念について教授する。 | 〃     |
| 12 | 神経症①     | 概念と疫学について教授する。       | 〃     |
| 13 | 神経症②     | 症状学と経過・治療について教授する。   | 〃     |
| 14 | 神経症③     | 症状学と各疾患について教授する。     | 〃     |
| 15 | まとめ      | 症状学と経過・治療について教授する。   | 〃     |

【授業時間外の学習】事前に資料を配付・配信することがあるため、資料に目を通しておくこと。授業後はその日に復習を行い、講義で出てきた医療専門用語を確認するとともに内容について自分なりに配付資料あるいはノートに整理しておくこと。十分な理解を得るためには予習・復習に1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義では、必ず教科書、タブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】毎水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】整形外科学Ⅰ

【教員名】北田 功

【教員の実務経験】☐有

■無(理学療法士免許及び経験を有する教員が、リハビリテーションに必要な整形外科領域に関する講義を行う。)

【授業方法】■講義 ☐演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】整形外科領域では運動器に障害を呈する疾患を取り扱う。したがって運動器の基本構造、機能の理解が疾患を理解するために必要となる。様々な疾患を機能解剖学とともに学ぶことにより、整形外科領域におけるリハビリテーションの理解を深める。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 整形外科学について対象や治療、基本的な療法(保存・手術)について説明することができる。
2. 整形外科疾患について説明することができる。
3. 整形外科疾患の理解に必要な機能解剖を説明できる。
4. 整形外科疾患の診断・評価を説明することができる。

【教科書】中村利孝, 松野丈夫監修: 標準整形外科学 第15版. 医学書院. 2023.

【参考書等】

岩本幸英編: 神中整形外科学 上巻・下巻 改訂23版. 南山堂, 2013.

医療情報科学研究所編集: 病気がみえる vol.11 運動器・整形外科. メディックメディア. 2017.

【成績評価】■定期試験(100%) ☐小テスト ☐課題レポート ☐その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ             | 授業内容                                     | 教員名  |
|----|-----------------|------------------------------------------|------|
| 1  | 整形外科学について       | 学問としての整形外科学の理解と診断学の理解                    | 北田 功 |
| 2  | 〃               | 整形外科学的診断学の理解                             | 〃    |
| 3  | 〃               | 整形外科学的治療法(インフォームド・コンセント、保存療法)の理解         | 〃    |
| 4  | 〃               | 整形外科学的治療法(手術療法)について                      | 〃    |
| 5  | 整形外科の代表疾患について   | 慢性関節疾患について、関節の構造と機能の再学習、及び各種疾患との関連性の理解   | 〃    |
| 6  | 〃               | リウマチとその類縁疾患の理解                           | 〃    |
| 7  | 〃               | 軟部組織損傷の理解                                | 〃    |
| 8  | 骨傷害の整形外科について    | 骨・関節の損傷総論について構造・機能の再学習。骨折、脱臼、捻挫の理解       | 〃    |
| 9  | 各種関節の整形外科疾患について | 肩関節及び上腕について構造・機能の再学習と疾患との関係性の理解          | 〃    |
| 10 | 〃               | 肩関節及び上腕について各種疾患の理解                       | 〃    |
| 11 | 〃               | 肘関節部および前腕について構造・機能を再学習。各種疾患との関連性の理解      | 〃    |
| 12 | 〃               | 肘関節部および前腕について各種疾患の理解                     | 〃    |
| 13 | 〃               | 手関節部と手指について構造・機能について再学習。各種疾患を知り、変形と拘縮の理解 | 〃    |
| 14 | 整形外科の代表疾患について   | 骨壊死及び骨端症、四肢循環障害の症状、リスク管理、病理病態を理解         | 〃    |
| 15 | 〃               | スポーツ整形外科でのリハビリテーションの役割を理解                | 〃    |

【授業時間外の学習】事前に資料を配付・配信することがあるため、資料に目を通しておくこと。授業後はその日に復習を行い、講義で出てきた医療専門用語を確認するとともに内容について自分なりに

配付資料あるいはノートに整理しておくこと。十分な理解を得るためには予習・復習に1時間程度を要する。

**【履修条件・注意事項】**講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢（私語や受講態度）については厳しく指導する。講義では、必ず教科書、タブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

**【オフィスアワー】** 毎木曜日 17 時から 17 時 30 分(本館事務室前)

【科目名】整形外科学Ⅱ

【教員名】北田 功

【教員の実務経験】☐有

■無(理学療法士免許及び経験を有する教員が、リハビリテーションに必要な整形外科領域に関する講義を行う。)

【授業方法】☒講義 ☐演習 ☐実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】整形外科領域では運動器に障害を呈する疾患を取り扱う。したがって運動器の基本構造、機能の理解が疾患を理解するために必要となる。様々な疾患を機能解剖学とともに学ぶことにより、整形外科領域におけるリハビリテーションの理解を深める。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 整形外科疾患について説明できる。
2. 整形外科疾患の理解に必要な機能解剖を説明できる。
3. 整形外科疾患の診断・評価を説明することができる。

【教科書】中村利孝，松野丈夫監修：標準整形外科学 第15版．医学書院．2023．

【参考書等】

岩本幸英編：神中整形外科学 上巻・下巻 改訂23版．南山堂，2013．

医療情報科学研究所編集：病気がみえる vol.11 運動器・整形外科．メディックメディア，2017．

【成績評価】☒定期試験(100%) ☐小テスト ☐課題レポート ☐その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ             | 授 業 内 容                            | 教員名  |
|----|-----------------|------------------------------------|------|
| 1  | 各種関節の整形外科疾患について | 脊椎・脊髄について構造・機能を再学習。各種疾患との関連性の理解    | 北田 功 |
| 2  | 〃               | 脊椎・脊髄の各種疾患の理解                      | 〃    |
| 3  | 〃               | 骨盤部について構造・機能を再学習。各種疾患との関連性の理解      | 〃    |
| 4  | 〃               | 股関節部及び大腿について構造・機能を再学習。各種疾患との関連性の理解 | 〃    |
| 5  | 〃               | 股関節部の各種疾患の理解                       | 〃    |
| 6  | 〃               | 膝関節及び下腿について構造・機能を再学習。各種疾患との関連性の理解  | 〃    |
| 7  | 〃               | 膝関節の各種疾患との関連性の理解                   | 〃    |
| 8  | 〃               | 下腿の各種疾患との関連性の理解                    | 〃    |
| 9  | 〃               | 足関節と足部構造・機能を再学習。各種疾患との関連性の理解       | 〃    |
| 10 | 〃               | 足関節と足部の各種疾患の理解                     | 〃    |
| 11 | 〃               | 神経疾患・筋疾患について構造・機能を再学習。各種疾患との関連性の理解 | 〃    |
| 12 | 〃               | 神経疾患・筋疾患の各種疾患の理解                   | 〃    |
| 13 | 〃               | 熱傷についての理解                          | 〃    |
| 14 | 〃               | 小児整形外科疾患の理解                        | 〃    |
| 15 | 〃               | まとめ                                | 〃    |

【授業時間外の学習】事前に資料を配付・配信することがあるため、資料に目を通しておくこと。授業後はその日に復習を行い、講義で出てきた医療専門用語を確認するとともに内容について自分なりに配付資料あるいはノートに整理しておくこと。十分な理解を得るためには予習・復習に1時間程度を

要する。

**【履修条件・注意事項】**講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢（私語や受講態度）については厳しく指導する。講義では、必ず教科書、タブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

**【オフィスアワー】** 毎木曜日 17 時から 17 時 30 分(本館事務室前)

【科目名】小児科学

【教員名】武田 英二

【教員の実務経験】■有(実務経験のある医師が理学療法士・作業療法士に医療的内容に関する講義を行う。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】小児の成長と発達の特徴、及び新生児を含む小児特有の疾患を中心に、病態、診断、治療、予防について系統的に学習する。

【到達目標】子どもの特徴と疾患を学び、さらに最新の知識も修得できる。

【教科書】香美祥二、森健治編集：最新育児小児病学 改訂第8版。南江堂，2026.

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】■定期試験(40%) □小テスト ■課題レポート(60%) □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ        | 授業内容                            | 教員名   |
|----|------------|---------------------------------|-------|
| 1  | 小児期の発育と発達  | 形態発育                            | 武田 英二 |
| 2  | 〃          | 運動と精神機能の発達                      | 〃     |
| 3  | 小児の生理      | 胎生期、循環機能、呼吸機能、血液、免疫             | 〃     |
| 4  | 〃          | 消化機能、腎機能、皮膚機能、体温、睡眠             | 〃     |
| 5  | 乳幼児の栄養     | 母乳栄養、人工栄養、混合栄養                  | 〃     |
| 6  | 〃          | 離乳、幼児食、食事講堂の障害                  | 〃     |
| 7  | 小児保健       | 小児保健、母子保健、子ども虐待、予防接種、学校保健、小児の事故 | 〃     |
| 8  | 胎児期・小児期の分類 | 胎児期・小児期の特徴                      | 〃     |
| 9  | 先天異常       | 分類、先天代謝異常、染色体異常、先天奇形            | 〃     |
| 10 | 新生児疾患      | 新生児の定義と特徴、新生児仮死、代謝障害            | 〃     |
| 11 | 神経疾患       | 脳性麻痺、けいれん性疾患、発達障害               | 〃     |
| 12 | 筋・運動器疾患    | 重症筋無力症、筋ジストロフィー、二分脊椎症           | 〃     |
| 13 | 心身症        | 心身症の定義と発症の要因、不登校、子ども虐待          | 〃     |
| 14 | 感染性疾患      | 感染症、アレルギー疾患                     | 〃     |
| 15 | 血液疾患、小児がん  | 貧血、出血性疾患、白血病                    | 〃     |

【授業時間外の学習】講義で習った専門用語や内容を確認し、ノートにまとめる。

【履修条件・注意事項】講義には教科書、ノート、タブレットを持参する。まじめに受講し、質問などにより講義内容の理解に努める。

【オフィスアワー】火曜日、水曜日、木曜日の16時30分～18時(校長室)

# 專 門 分 野

理学療法学科

【科目名】基礎理学療法学Ⅱ

【教員名】松浦 康、北田 功、松島 史弥

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、各疾患における基礎的な理学療法を教授する。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】理学療法学の基礎知識を用いて、各疾患における理学療法の概要を学ぶ。

【到達目標】理学療法に必要な各種疾患の知識・技術の概要を理解できる。

【教科書】

吉尾雅春、横田和彦編集：標準理学療法学 運動療法学総論 第4版。医学書院，2017。

吉尾雅春、横田和彦編集：標準理学療法学 運動療法学各論 第4版。医学書院，2017。

適宜資料配付・配信

【参考書等】

内山靖編：標準理学療法学 基礎理学療法学。医学書院，2006。

石川齊等編：図解理学療法技術ガイド 第4版。文光堂，2014。

原寛美編：脳卒中理学療法の理論と技術 第3版。MEDICAL VIEW，2019。

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ    | 授 業 内 容                 | 教員名   |
|----|--------|-------------------------|-------|
| 1  | 概要     | 疾患別理学療法における概要を理解する      | 松浦 康  |
| 2  | 呼吸器疾患  | 呼吸不全に対する理学療法を理解する ①     | 〃     |
| 3  | 〃      | 呼吸不全に対する理学療法を理解する ②     | 〃     |
| 4  | 〃      | 呼吸不全に対する理学療法を理解する ③     | 〃     |
| 5  | 疼痛     | 疼痛疾患に対する理学療法を理解する ①     | 北田 功  |
| 6  | 〃      | 疼痛疾患に対する理学療法を理解する ②     | 〃     |
| 7  | 〃      | 疼痛疾患に対する理学療法を理解する ③     | 〃     |
| 8  | 骨関節系疾患 | 腰部脊柱管狭窄症に対する理学療法を理解する ① | 〃     |
| 9  | 〃      | 腰部脊柱管狭窄症に対する理学療法を理解する ② | 〃     |
| 10 | 糖尿病    | 糖尿病に対する理学療法を理解する ①      | 松島 史弥 |
| 11 | 〃      | 糖尿病に対する理学療法を理解する ②      | 〃     |
| 12 | 中枢疾患   | 脳卒中における理学療法を理解する ①      | 〃     |
| 13 | 〃      | 脳卒中における理学療法を理解する ②      | 〃     |
| 14 | 〃      | 脳卒中における理学療法を理解する ③      | 〃     |
| 15 | まとめ    | まとめ・振り返り                | 松浦 康  |

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容をノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習復習には、2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず教科書・配付資料およびタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問すること。

【オフィスアワー】月曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】基礎理学療法学Ⅲ

【教員名】池住 祐哉、北田 功、松浦 康

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、各疾患における理学療法の展開に必要な知識や思考過程の教授・アドバイスを実施する。)

□無

【授業方法】□講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】各疾患における病態・生理を基に、適切な理学療法評価を選択し、抽出した問題点について、運動療法を中心に治療技術を理解する。また、専門書やガイドライン、医学文献を参考に最新の根拠のある治療についても理解を深めることを目的とする。

【到達目標】学生は代表的な疾患に対する臨床で活用できる治療技術の理解ができる。

【教科書】適宜資料配付

【参考書等】

吉尾雅春，横田一彦編集：標準理学療法学 専門分野 運動療法学各論 第4版．医学書院，2017．各自必要な文献，参考書を持参する

【成績評価】□定期試験 ■小テスト(100%) □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ        | 授業内容               | 教員名   |
|----|------------|--------------------|-------|
| 1  | 疾患別運動療法の概要 | 疾患別治療について          | 北田 功  |
| 2  | 疾患別理学療法    | 頰椎症性脊髄症の治療について     | 〃     |
| 3  | 〃          | 大腿骨頸部骨折の治療について     | 〃     |
| 4  | 〃          | 整形疾患の理学療法：国家試験について | 〃     |
| 5  | 〃          | 整形疾患の理学療法：国家試験について | 〃     |
| 6  | 〃          | 変形性関節症の治療について      | 松浦 康  |
| 7  | 〃          | 人工膝関節置換術後の治療について   | 〃     |
| 8  | 〃          | 前十字靱帯損傷の治療について     | 〃     |
| 9  | 〃          | 肩関節痛の治療について        | 〃     |
| 10 | 〃          | 腰部脊柱管狭窄症の治療について    | 〃     |
| 11 | 〃          | 腰痛の治療について          | 池住 祐哉 |
| 12 | 〃          | リスク管理について          | 〃     |
| 13 | 〃          | 高齢者のリハビリテーションについて  | 〃     |
| 14 | 〃          | パーキンソン病の治療について     | 〃     |
| 15 | まとめ        | まとめ                | 〃     |

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習及び復習には、各2時間程度を要する。またグループ発表における資料作成のための自己学習が必要となる。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】毎月曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

【科目名】理学療法評価学Ⅱ

【教員名】松浦 康、北田 功、松島 史弥

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、臨床に必要な評価法と触診の技術について講義(演習)を行う。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位(60時間)

【授業概要と目的】理学療法士に必要な疾患に応じた評価法と触診の技術を身につけることを目的とする。できるだけ多く演習を取り入れ、臨床で十分実施できるようにする。

【到達目標】学生は理学療法士に必要な評価の知識や技術を習得し、臨床で正確に実施できる。

【教科書】

潮見泰藏，下田信明著：PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版．羊土社，2020．

津山直一，中村耕三訳：新・徒手筋力検査法 原著第10版．協同医書出版，2020．

適時印刷教材配付

【参考書等】

星文彦ほか編：理学療法評価学テキスト．南江堂，2010．

田崎義昭，斎藤佳雄著：ベッドサイドの神経の診かた 改訂第17版．南山堂，2010．

石川朗総編集：理学療法テキスト 理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ．中山書店，2013．

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ | 授業内容      | 教員名 | 回数 | テーマ  | 授業内容          | 教員名 |
|----|-----|-----------|-----|----|------|---------------|-----|
| 1  | 片麻痺 | 総論        | 松島  | 16 | 脳神経  | 脳神経Ⅲ(X～Ⅻ)     | 松島  |
| 2  | 〃   | 下肢(BRS)   | 〃   | 17 | 協調性  | 協調性検査Ⅰ        | 松浦  |
| 3  | 〃   | 下肢(上田法)   | 〃   | 18 | 〃    | 協調性検査Ⅱ        | 〃   |
| 4  | 〃   | 上肢(BRS)   | 〃   | 19 | バランス | バランステスト       | 〃   |
| 5  | 〃   | 上肢(上田法)   | 〃   | 20 | 動作   | 動作観察          | 〃   |
| 6  | 筋緊張 | 筋トーンⅠ     | 松浦  | 21 | 触診   | 骨の解剖と触診①      | 北田  |
| 7  | 〃   | 筋トーンⅡ     | 〃   | 22 | 〃    | 骨の解剖と触診②      | 〃   |
| 8  | 〃   | 筋トーンⅢ     | 〃   | 23 | 〃    | 頸部の筋の解剖と触診    | 〃   |
| 9  | 高次脳 | 高次脳Ⅰ      | 松島  | 24 | 〃    | 体幹後面の筋の解剖と触診  | 〃   |
| 10 | 〃   | 高次脳Ⅱ      | 〃   | 25 | 〃    | 体幹前面の筋の解剖と触診  | 〃   |
| 11 | 整形  | 体幹        | 松浦  | 26 | 〃    | 上肢の筋の解剖と触診    | 〃   |
| 12 | 〃   | 上肢        | 〃   | 27 | 〃    | 上肢の筋の解剖と触診    | 〃   |
| 13 | 〃   | 下肢        | 〃   | 28 | 〃    | 下肢の筋の解剖と触診    | 〃   |
| 14 | 脳神経 | 脳神経Ⅰ(Ⅰ～Ⅳ) | 松島  | 29 | 〃    | 下肢の筋の解剖と触診    | 〃   |
| 15 | 〃   | 脳神経Ⅱ(Ⅴ～Ⅸ) | 〃   | 30 | 〃    | 体表解剖の国家試験問題解説 | 〃   |

【授業時間外の学習】授業実施日に復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。予習及び復習に各1時間程度を要する。実技を行うので、各自実技練習を行うようにする。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された資料及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】木曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

【科目名】理学療法評価学演習

【教員名】森下 照大

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、理学療法評価に必要な思考過程や技術に関する講義を行う。)

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】臨床の理学療法評価場面を想定し、より臨床的な演習を行う。評価技術の復習・応用に役立てることと、臨床推論の思考過程を熟考する。

【到達目標】学生は理学療法士としての基礎知識の確認と理学療法評価技術の応用、助言を受けながら臨床推論ができる。

【教科書】なし

【参考書等】潮見泰藏, 下田信明著: PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版, 羊土社, 2020.

津山直一, 中村耕三訳: 新・徒手筋力検査法 原著第10版, 協同医書出版, 2020.

【成績評価】□定期試験 □小テスト ■課題レポート(100%) □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ    | 授業内容                | 教員名   |
|----|--------|---------------------|-------|
| 1  | 総論     | 臨床に必要な基本的理学療法評価(知識) | 森下 照大 |
| 2  | 〃      | 臨床に必要な基本的理学療法評価(技術) | 〃     |
| 3  | 評価技術演習 | 医療面接と情報収集演習         | 〃     |
| 4  | 〃      | 脳機能・精神関連の評価演習       | 〃     |
| 5  | 〃      | 全身機能の評価演習           | 〃     |
| 6  | 〃      | 身体機能の評価演習①          | 〃     |
| 7  | 〃      | 身体機能の評価演習②          | 〃     |
| 8  | 〃      | 身体機能の評価演習③          | 〃     |
| 9  | 〃      | 身体機能の評価演習④          | 〃     |
| 10 | 〃      | 身体機能の評価演習⑤          | 〃     |
| 11 | 〃      | 活動能力の評価演習           | 〃     |
| 12 | 臨床評価思考 | 症例に基づく評価演習①         | 〃     |
| 13 | 〃      | 症例に基づく評価演習②         | 〃     |
| 14 | 〃      | 症例に基づく評価演習③         | 〃     |
| 15 | 〃      | 症例に基づく評価演習④         | 〃     |

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】毎水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】神経系障害理学療法学

【教員名】松島 史弥

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、中枢神経系の理学療法に必要な医療的内容に関する講義を行う。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】解剖学、生理学、病理学で学んだ基礎医学と神経内科学や脳神経外科学など臨床医学知識を基に、中枢神経系に由来する様々な疾患や病態、障害に対する理学療法への応用を理解すること。

【到達目標】学生は中枢神経系疾患に対する理学療法の評価・治療・応用が理解できる。

【教科書】石川朗, 大畑光司編集: 15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト神経障害理学療法学 I 第2版. 中山書店, 2020.

【参考書等】医療情報科学研究所編集: 病気がみえる vol. 7 脳・神経 第2版. メディックメディア, 2017.

【成績評価】■定期試験(80%) □小テスト □課題レポート ■その他(実技の模倣 20%)

【授業計画】

| 回数 | テーマ     | 授業内容                               | 教員名   |
|----|---------|------------------------------------|-------|
| 1  | 神経障害総論  | 中枢神経系の構造と機能について理解する(講義)            | 松島 史弥 |
| 2  | 脳の機能と構造 | 大脳皮質の運動関連領域について理解する(講義)            | 〃     |
| 3  | 〃       | 感覚, 脳血管の走行と灌流領域について理解する(講義)        | 〃     |
| 4  | 脳血管障害   | 脳血管障害の分類と疫学について理解する(講義)            | 〃     |
| 5  | 脳損傷疾患   | 頭部外傷・脳腫瘍・低酸素血症について理解する(講義)         | 〃     |
| 6  | 中枢神経障害  | 中枢性運動障害の病態を理解する(講義)                | 〃     |
| 7  | 〃       | 中枢性運動障害の評価を理解する(講義)                | 〃     |
| 8  | 〃       | 脳卒中後片麻痺に対する理学療法 ①(講義・実技)           | 〃     |
| 9  | 〃       | 脳卒中後片麻痺に対する理学療法 ①(実技テスト)           | 〃     |
| 10 | 〃       | 脳卒中後片麻痺に対する理学療法 ②(講義)              | 〃     |
| 11 | 〃       | 脳卒中後片麻痺に対する理学療法 ③(講義)              | 〃     |
| 12 | 〃       | 脳血管障害に対する治療と急性期理学療法を理解する。<br>①(講義) | 〃     |
| 13 | 〃       | 脳血管障害に対する治療と急性期理学療法を理解する。<br>②(実技) | 〃     |
| 14 | 〃       | 脳血管障害に対する治療と回復期理学療法を理解する。<br>①(講義) | 〃     |
| 15 | 〃       | 脳血管障害に対する治療と回復期理学療法を理解する。<br>②(実技) | 〃     |

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については減点の対象とする。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】毎月曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】神経系障害理学療法学

【教員名】松島 史弥

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、高次脳機能や神経系疾患における理学療法に必要な医療的内容に関する講義を行う。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症、小脳性疾患等の代表的な神経筋疾患の病態を理解すると共にその理学療法の評価及び治療技術を理解する。

【到達目標】学生は高次脳機能障害について理解を深める。また、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、小脳性疾患等の代表的な神経筋疾患に対する評価や理学療法を行う意義・目的を理解できる。

【教科書】

中山恭秀編:Crosslonk 理学療法学テキスト神経障害理学療法学Ⅱ 神経筋疾患. メジカルビュー社, 2019.

医療情報科学研究所編集:病気がみえる vol. 7 脳・神経 第2版. メディックメディア, 2017.

【参考書等】丸山仁司編:系統理学療法学 神経障害系理学療法学. 医歯薬出版, 2005.

【成績評価】■定期試験(80%) □小テスト ■課題レポート(20%) □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ       | 授業内容                          | 教員名   |
|----|-----------|-------------------------------|-------|
| 1  | パーキンソン病   | パーキンソン病の理学療法について理解する。① (講義)   | 松島 史弥 |
| 2  | 〃         | パーキンソン病の理学療法について理解する。② (GW)   | 〃     |
| 3  | 〃         | パーキンソン病の理学療法について理解する。③ (GW)   | 〃     |
| 4  | 小脳性疾患     | 小脳性疾患の理学療法について理解する。① (講義)     | 〃     |
| 5  | 〃         | 小脳性疾患の理学療法について理解する。② (GW)     | 〃     |
| 6  | 〃         | 小脳性疾患の理学療法について理解する。③ (GW)     | 〃     |
| 7  | 筋ジストロフィー  | 筋ジストロフィーの理学療法について理解する。① (講義)  | 〃     |
| 8  | 〃         | 筋ジストロフィーの理学療法について理解する。② (GW)  | 〃     |
| 9  | 〃         | 筋ジストロフィーの理学療法について理解する。③ (GW)  | 〃     |
| 10 | 筋萎縮性側索硬化症 | 筋萎縮性側索硬化症の理学療法について理解する。① (講義) | 〃     |
| 11 | 〃         | 筋萎縮性側索硬化症の理学療法について理解する。② (GW) | 〃     |
| 12 | 〃         | 筋萎縮性側索硬化症の理学療法について理解する。③ (GW) | 〃     |
| 13 | 多発性硬化症    | 多発性硬化症の理学療法について理解する。① (講義)    | 〃     |
| 14 | 〃         | 多発性硬化症の理学療法について理解する。② (GW)    | 〃     |
| 15 | 〃         | 多発性硬化症の理学療法について理解する。③ (GW)    | 〃     |

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】毎月曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】筋骨格系障害理学療法学

【教員名】河野 博史

【教員の実務経験】■有(臨床の理学療法士が筋骨格系疾患に必要な医療的内容に関する講義(演習)を行う。)

□無

【授業方法】□講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】整形外科が対象とする筋骨格系疾患の治療には、理学療法が占める役割は大きい。ここでは、整形外科疾患について理学療法士が必要とする知識の習得とその具体的な治療法を教授する。特に、各種疾患に対する運動療法の原理と技術を学ぶ。

【到達目標】学生は整形外科疾患における運動療法の考え方を修得し、それを実践できる。

【教科書】なし 適宜資料配付

【参考書等】

松野丈夫, 中村利孝編: 標準整形外科学 第12版. 医学書院, 2014.

中村隆一ほか編: 基礎運動学 第6版補訂. 医歯薬出版, 2012.

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ                | 授 業 内 容                                             | 教員名   |
|----|--------------------|-----------------------------------------------------|-------|
| 1  | 骨折の病態と臨床的特徴        | 骨折の病態とその臨床的特徴について理解する。                              | 河野 博史 |
| 2  | 骨折の整形外科的治療法①       | 骨折の分類と保存療法について理解する。                                 | 〃     |
| 3  | 骨折の整形外科的治療法②       | 骨折の分類と観血的療法について理解する。                                | 〃     |
| 4  | 骨折のリハビリテーション       | 骨折のリハビリテーションについて理解する。                               | 〃     |
| 5  | 大腿骨頸部骨折の病態と臨床的特徴   | 大腿骨頸部骨折の病態とその臨床的特徴について理解する。                         | 〃     |
| 6  | 大腿骨頸部骨折の整形外科的治療法①  | 大腿骨頸部骨折の分類とその治療法について理解する。                           | 〃     |
| 7  | 大腿骨頸部骨折の整形外科的治療法②  | 大腿骨頸部骨折の保存療法と観血的治療法について理解する。                        | 〃     |
| 8  | 大腿骨頸部骨折のリハビリテーション  | 大腿骨頸部骨折のリハビリテーションについて理解する。                          | 〃     |
| 9  | 変形性股関節症の病態と臨床的特徴   | 変形性股関節症の病態とその臨床的特徴について理解する。                         | 〃     |
| 10 | 変形性股関節症の整形外科的治療法①  | 変形性股関節症の整形外科的治療法について理解する。                           | 〃     |
| 11 | 変形性股関節症の整形外科的治療法②  | 変形性股関節症の整形外科的治療法について理解する。                           | 〃     |
| 12 | 変形性股関節症のリハビリテーション① | 変形性股関節症のリハビリテーションについて理解する。                          | 〃     |
| 13 | 変形性股関節症のリハビリテーション② | 変形性股関節症のリハビリテーションについて理解する。                          | 〃     |
| 14 | 症例シミュレーション①        | 各疾患における機能評価及びリハビリテーション・プログラムのシミュレーションをグループ学習にて検討する。 | 〃     |
| 15 | 症例シミュレーション②        | 各疾患における機能評価及びリハビリテーション・プログラムのシミュレーションをグループ学習にて検討する。 | 〃     |

【授業時間外の学習】授業終了後、復習を行い、講義で指摘された重要点を確認するとともにその内容を自分なりにノートにまとめること。また、講義内容を十分に理解するため、予習及び復習には、各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は、講義内容を理解することに注意を払うこと。講義に対する姿勢や態度については、厳しく指導する。講義には配付する資料や参考書等を持参すること。また、疑問点があれば積極的に質問すること。

【科目名】筋骨格系障害理学療法学

【教員名】河野 博史

【教員の実務経験】■有(臨床の理学療法士が筋骨格系疾患に必要な医療的内容に関する講義(演習)を行う。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】整形外科が対象とする筋骨格系疾患の治療には、理学療法が占める役割は大きい。ここでは、整形外科疾患について理学療法士が必要とする知識の習得とその具体的な治療法を教授する。特に、筋骨格系疾患に対する理学療法の原理と実践を学ぶ。

【到達目標】学生は整形外科疾患における理学療法の考え方を修得し、それを実践できる。

【教科書】なし 適宜資料配付

【参考書等】

松野丈夫, 中村利孝編: 標準整形外科学 第12版. 医学書院, 2014.

中村隆一ほか編: 基礎運動学 第6版補訂. 医歯薬出版, 2012.

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ                      | 授 業 内 容                            | 教員名   |
|----|--------------------------|------------------------------------|-------|
| 1  | 変形性膝関節症の病態と臨床的特徴         | 疾病の病態とその臨床的特徴について理解する。             | 河野 博史 |
| 2  | 変形性膝関節症の整形外科的治療法         | 観血的治療と保存療法について理解する。                | 〃     |
| 3  | 変形性膝関節症の治療とリハビリテーションについて | 保存療法及び観血的療法後のリハビリテーションについて理解する。    | 〃     |
| 4  | 膝靭帯損傷の病態と臨床的特徴           | 疾病の分類とその臨床的特徴について理解する。             | 〃     |
| 5  | 膝靭帯損傷の治療とリハビリテーションについて   | 疾病の保存療法及び観血的療法後のリハビリテーションについて理解する。 | 〃     |
| 6  | 肩関節周囲炎の病態について            | 疾病の病態とその臨床的特徴について理解する。             | 〃     |
| 7  | 肩関節周囲炎の治療とリハビリテーションについて  | 疾病の治療とリハビリテーションについて理解する。           | 〃     |
| 8  | 腱板断裂の病態について              | 疾病の病態とその臨床的特徴について理解する。             | 〃     |
| 9  | 腱板断裂の治療とリハビリテーションについて    | 疾病の治療とリハビリテーションについて理解する。           | 〃     |
| 10 | 関節リウマチの病態について            | 疾病の分類とその臨床的特徴について理解する。             | 〃     |
| 11 | 関節リウマチの治療とリハビリテーションについて  | 疾病の治療とリハビリテーションについて理解する。           | 〃     |
| 12 | 疾患シミュレーション①              | 各疾患に対するリハビリテーション(運動療法)を理解する。(実技)   | 〃     |
| 13 | 疾患シミュレーション②              | 各疾患に対するリハビリテーション(運動療法)を理解する。(実技)   | 〃     |
| 14 | 疾患シミュレーション③              | 各疾患に対するリハビリテーション(運動療法)を理解する。(実技)   | 〃     |
| 15 | 疾患シミュレーション④              | 各疾患に対するリハビリテーション(運動療法)を理解する。(実技)   | 〃     |

【授業時間外の学習】授業終了後、復習を行い、講義で指摘された重要点を確認するとともにその内容を自分なりにノートにまとめること。また、講義内容を十分に理解するため、予習及び復習には、各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は、講義内容を理解することに注意を払うこと。講義に対する姿勢や態度については、厳しく指導する。講義には配付する資料や参考書等を持参すること。また、疑問点があれば積極的に質問すること。

【科目名】内部障害系理学療法学

【教員名】森下 照大

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、理学療法士に必要な内部障害系理学療法の知識と技術について講義を行う。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】内部障害系理学療法の基本的な考え方および理学療法士に必要な知識と技術について理解する。

【到達目標】学生は内部障害系理学療法に対する理解を深め理学療法士の役割と方法を説明できる。

【教科書】高橋哲也編：最新理学療法講座 内部障害系理学療法学 医歯薬出版，2021。

【参考書等】松尾善美編集：PT・OT ビジュアルテキスト 内部障害系理学療法学 羊土社，2016。

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ        | 授業内容                          | 教員名   |
|----|------------|-------------------------------|-------|
| 1  | 循環器疾患の理学療法 | 循環器疾患の病理病態について説明する            | 森下 照大 |
| 2  | 〃          | 循環器疾患の医学的評価方法について説明する         | 〃     |
| 3  | 〃          | 循環器疾患の医学的治療方法について説明する         | 〃     |
| 4  | 〃          | 循環器疾患に対する理学療法の役割と目的について説明する   | 〃     |
| 5  | 〃          | 循環器疾患に対する理学療法の評価について説明する      | 〃     |
| 6  | 〃          | 循環器疾患に対する理学療法の治療方法と効果について説明する | 〃     |
| 7  | 〃          | 循環器疾患に対するセルフケアや再発予防について説明する   | 〃     |
| 8  | 呼吸器疾患の理学療法 | 呼吸器疾患の病理病態について説明する            | 〃     |
| 9  | 〃          | 呼吸器疾患に対する理学療法の役割と目的について説明する   | 〃     |
| 10 | 〃          | 呼吸器疾患に対する理学療法の評価について説明する      | 〃     |
| 11 | 〃          | 呼吸器疾患に対する理学療法の治療方法と効果について説明する | 〃     |
| 12 | 代謝疾患の理学療法  | 代謝疾患の病理病態について説明する             | 〃     |
| 13 | 〃          | 代謝疾患に対する理学療法の役割と効果について説明する    | 〃     |
| 14 | がんの理学療法    | がんの病理病態と医学的評価と治療について説明する      | 〃     |
| 15 | 〃          | がんに対する理学療法の役割と目的について説明する      | 〃     |

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容をノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習および復習には、各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず教科書・配付資料・タブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問すること。

【オフィスアワー】水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】内部障害系理学療法学

【教員名】高橋 哲也、森 和之、森下 照大

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、内部障害系理学療法の知識と技術について講義を行う。)

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】内部障害系の理学療法について、より専門的かつ最新の知識を学び、臨床現場で求められる実践的な理学療法士の役割と方法を学ぶ。

【到達目標】学生は内部障害に対する理学療法により専門的な理解を深め説明できるようになる。

【教科書】高橋哲也編：最新理学療法講座 内部障害理学療法学 医歯薬出版，2021.

【参考書等】松尾善美編集：PT・OT ビジュアルテキスト 内部障害理学療法学 羊土社，2016.

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ        | 授業内容                                      | 教員名   |
|----|------------|-------------------------------------------|-------|
| 1  | 循環器疾患の理学療法 | 内部障害系理学療法学とは。                             | 高橋 哲也 |
| 2  | 〃          | 心臓の機能について理解を深める。<br>循環器疾患の病理病態について理解を深める。 | 〃     |
| 3  | 〃          | 循環器疾患に対する理学療法の評価方法と治療方法について理解を深める。        | 〃     |
| 4  | 〃          | 循環器疾患の再発予防とリスク管理について理解を深める。               | 〃     |
| 5  | 〃          | 心電図について理解を深める。(読み方の基本)                    | 〃     |
| 6  | 〃          | 心電図について理解を深める。(不整脈・虚血)                    | 〃     |
| 7  | 〃          | 循環器疾患に対する医療的評価と治療について理解を深める。              | 〃     |
| 8  | 〃          | 循環器疾患患者の臨床データの意味について理解を深める。               | 〃     |
| 9  | 〃          | 循環器疾患患者の胸部 X 線写真の評価ととらえ方について理解を深める①       | 〃     |
| 10 | 〃          | 循環器疾患患者の胸部 X 線写真の評価ととらえ方について理解を深める②       | 〃     |
| 11 | 呼吸器疾患の理学療法 | 呼吸器疾患に関連する医学的基礎知識について理解を深める。              | 森下 照大 |
| 12 | 〃          | 呼吸器疾患の病理病態について理解を深める。                     | 〃     |
| 13 | 〃          | 呼吸器疾患に対する理学療法の目的と効果について理解を深める。            | 〃     |
| 14 | 〃          | 呼吸器疾患に対する実際の理学療法について演習を行い理解を深める。          | 〃     |
| 15 | 〃          | 喀痰吸引について演習を行い理解を深める。                      | 森 和之  |

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容をノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習および復習には、各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず教科書・配付資料を持参すること。疑問点があれば積極的に質問すること。

【オフィスアワー】森下：水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】発達障害系理学療法学

【教員名】加藤 志帆、浅利 悦史

【教員の実務経験】■有(医療機関等で発達障害児・者に関わっている理学療法士が、その経験を生かし、臨床現場において実践的に役に立つ授業を実施する。)

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】

- ・脳性麻痺を評価・治療する上で必要な正常発達や、姿勢トーンを理解し、実際に体で感じてもらう。それを一つの基準として、病的な状態について解説し、治療手技では基本的な援助方法を実技にて学習していく。
- ・小児科領域の理学療法治療の基盤となる正常発達を理解する。多様化するニーズに対応できるよう、理学療法士の様々な働き方について映像等を見て学ぶ。
  - ①得た知識や思考を、書く・話すという形でアウトプットして整理する。
  - ②学生同士のディスカッションや教員のフィードバックにより、理解を深めるとともに、他者の視点を取り入れ自己の理解を相対化させる。
  - ③自ら調べ、考察することを経験する。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

- ・子供と接する事への苦手意識をなくすことができる。
- ・正常な発達・姿勢トーンを知る。
- ・評価の進め方を理解できる。
- ・基本的な治療技術を獲得する。
- ・正常な発達・姿勢の理解が子供の理学療法になぜ必要かを理解する。

【教科書】新田収編著：最新理学療法学講座 小児理学療法学。医歯薬出版，2023.

【参考書等】

藤井克則編：動画でわかる小児神経の診かた。羊土社，2020.

田原弘幸，千住秀明，鶴崎俊哉編集：小児疾患の理学療法。神陵文庫，2000.

Nancie R.Finnie，梶浦一郎訳：脳性まひの家庭療育。医歯薬出版，2003.

要原まな著：小児リハビリテーション医学。医歯薬出版，2006.

上田礼子[訳]著：日本版デンバー式発達スクリーニング検査。医歯薬出版，1980.

新田収：脳性麻痺による姿勢異常に対する理学療法。PTジャーナル。

小神博，内田雅之，井上和宏：脳性麻痺児の動作分析の実際。理学療法。

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ               | 授業内容                                                       | 教員名   |
|----|-------------------|------------------------------------------------------------|-------|
| 1  | 小児理学療法概論          | 子供と関わる時のセラピスト・子供・ご家族との距離の取り方を考える。小児理学療法の特徴・パラダイムシフトについて学ぶ。 | 加藤 志帆 |
| 2  | 正常発達              | マイルストーンでの発達段階を学び、VTRでも確認する。                                | 〃     |
| 3  | 〃                 | 正常発達を治療に生かすために必要な質的な正常発達を学習する。                             | 〃     |
| 4  | 姿勢反射              | 全ての姿勢反射を学習し、正常発達とも照らし合わせていく。                               | 〃     |
| 5  | 姿勢反応              | 全ての姿勢反応を学習し、正常発達とも照らし合わせていく。                               | 〃     |
| 6  | 医療的ケア児<br>重症心身障害児 | 医療的ケア、てんかん管理、摂食・嚥下ケアについて学び、リハビリテーションとの関連性を理解し深める。          | 〃     |
| 7  | 視機能の発達            | 視覚機能の発達と仕組みや働きを学習する。                                       | 〃     |
| 8  | 精神運動発達遅延・<br>ダウン症 | 正常発達と比べどのような症状がみられるのか、またどのような経過をたどっていくかを学ぶ。                | 浅利 悦史 |

|    |                       |                                                     |       |
|----|-----------------------|-----------------------------------------------------|-------|
| 9  | 精神運動発達遅延・<br>ダウン症の治療  | 国家試験に出題されるような基本的な治療場面を<br>学習する。                     | 浅利 悦史 |
| 10 | 筋ジストロフィー<br>(ドゥシェンヌ型) | 主な障害像・基本的な評価法を学習する。                                 | 〃     |
| 11 | 脳性麻痺とは                | 基本的な分類をVTRも使い学習する。                                  | 〃     |
| 12 | 脳性麻痺の分類               | それぞれの分類の障害像を理解する。また国家試験<br>問題も使い脳性まひの姿勢パターンを学習する。   | 〃     |
| 13 | 脳性麻痺の分類               |                                                     | 〃     |
| 14 | 脳性麻痺の評価、<br>GMFCS     | 脳性まひの評価それぞれの特徴を理解する。                                | 〃     |
| 15 | 小児整形疾患<br>国家試験問題      | 二分脊椎・先天性股関節疾患・ペルテス病について<br>理解する。<br>小児の過去国家試験問題を解く。 | 〃     |

【授業時間外の学習】毎週講義前に復習を行う。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】疑問があれば積極的に質問する。

【科目名】物理療法学

【教員名】池住 祐哉

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、生理学的作用から使用方法・臨床での応用に至るまでを教授する。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】物理療法の歴史と役割を知り、牽引療法・水治療法・温熱療法・寒冷療法の身体に対する効果・適応・禁忌等について理解する。また、これらの機器の使用方法(実技)について学ぶ。

【到達目標】各物理療法の効果・適応・禁忌を理解し、理学療法の一手段として実際に使用できる。

【教科書】庄本康治編集：PT・OT ビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第2版。羊土社，2023。

【参考書等】

適宜資料配付・配信

鳥野大編：理学療法学科講座 物理療法学。医歯薬出版株式会社，2020。

網本和編：標準理学療法学科 物理療法学 第4版。医学書院，2013。

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ   | 授 業 内 容                                  | 教員名   |
|----|-------|------------------------------------------|-------|
| 1  | 総 論   | 物理療法の歴史と今後の課題・展望                         | 池住 祐哉 |
| 2  | 温熱療法  | 温熱療法の目的と効果、種類、熱の移動形態について                 | 〃     |
| 3  | 〃     | 温熱療法の生理学的作用・適応及び禁忌                       | 〃     |
| 4  | 寒冷療法  | 寒冷療法の目的と効果                               | 〃     |
| 5  | 〃     | 寒冷療法の生理学的作用                              | 〃     |
| 6  | 〃     | 適応及び禁忌                                   | 〃     |
| 7  | 【実 習】 | ホットパック・パラフィンの扱い方<br>コールドパック・コールドスプレーの扱い方 | 〃     |
| 8  | 牽引療法  | 牽引療法の目的と効果・牽引療法の生理学的作用                   | 〃     |
| 9  | 【実 習】 | 骨盤牽引・腰椎牽引の目的と方法、適応及び禁忌<br>頸椎牽引・骨盤牽引の実施方法 | 〃     |
| 10 | 水治療法  | 水治療法の目的と効果                               | 〃     |
| 11 | 〃     | 水治療法の生理学的作用、適応及び禁忌                       | 〃     |
| 12 | 超音波療法 | 超音波療法の特徴・発生原理                            | 〃     |
| 13 | 〃     | 超音波の生理学的作用                               | 〃     |
| 14 | 【実 習】 | 超音波治療の扱い方                                | 〃     |
| 15 | まとめ   | 前期まとめ                                    | 〃     |

【授業時間外の学習】講義後は、授業内容の復習を行い、教授した物理療法機器の使用方法や生理的反応を再確認する。十分な理解を得る為の予習及び復習には、各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義で教授する物理療法機器の取扱いには、注意を要する為、授業外での実技練習の際には、担当教員に相談し、管理の元実施する事。

【オフィスアワー】毎水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】物理療法学

【教員名】池住 祐哉

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、生理学的作用から使用方法・臨床での応用に至るまでを教授する。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】物理療法の歴史と役割を知り、電気刺激療法・超音波療法を中心に身体に対する効果・適応・禁忌等について理解する。また、これらの機器の使用方法(実技)について学ぶ。

【到達目標】各物理療法の効果・適応・禁忌を理解し、理学療法の一手段として実際に使用できる。

【教科書】庄本康治編集：PT・OT ビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第2版。羊土社，2023。

【参考書等】

適宜資料配付・配信

鳥野大編：理学療法学科講座 物理療法学。医歯薬出版株式会社，2020。

網本和編：標準理学療法学科 物理療法学 第4版。医学書院，2013。

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ    | 授 業 内 容                                       | 教員名   |
|----|--------|-----------------------------------------------|-------|
| 1  | 光線療法   | 光線療法の総論・各光線療法の紹介                              | 池住 祐哉 |
| 2  | 〃      | 赤外線における生理学的作用・適応と禁忌                           | 〃     |
| 3  | 【実 習】  | 紫外線・レーザーにおける生理学的作用・適応と禁忌<br>紫外線療法・赤外線療法機器の扱い方 | 〃     |
| 4  | 電気刺激療法 | 電気刺激療法の目的・概要説明・生理学的作用                         | 〃     |
| 5  | 【実 習】  | 強さ時間曲線(SD 曲線)・クロナキシーの扱い方                      | 〃     |
| 6  | 電気刺激療法 | 電気刺激の刺激方法の違い・パラメーター                           | 〃     |
| 7  | 〃      | 疼痛に関する復習・TENS 概要・TENS 生理学的作用                  | 〃     |
| 8  | 〃      | IFC 概要及び生理学的作用・筋力に関する復習                       | 〃     |
| 9  | 〃      | 筋力低下に対する治療方法・NMES 概要・生理学的作用                   | 〃     |
| 10 | 〃      | 機能代償に対する治療の紹介・FES 概要                          | 〃     |
| 11 | 〃      | 創傷治癒を促進する治療の紹介・MES 概要                         | 〃     |
| 12 | 【実 習】  | 各種電気刺激療法機器の扱い方                                | 〃     |
| 13 | 極超短波療法 | 極超短波の特徴・発生原理・極超短波の生理学作用                       | 〃     |
| 14 | 【実 習】  | 極超短波治療機器の扱い方                                  | 〃     |
| 15 | まとめ    | 物理療法学まとめ                                      | 〃     |

【授業時間外の学習】講義後は、授業内容の復習を行い、教授した物理療法機器の使用方法や生理的反応を再確認する。十分な理解を得る為の予習及び復習には、各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義で教授する物理療法機器の取扱いには、注意を要する為、授業外での実技練習の際には、担当教員に相談し、管理の元実施する事。

【オフィスアワー】毎水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】義肢装具学

【教員名】泰地 良博

【教員の実務経験】☐有

■無(臨床経験豊富な理学療法士が臨床現場で特に役立つ知識と技術に関する講義を行う。)

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】理学療法分野において、装具は様々な対象者の動作能力改善を図るために重要な手段である。そこで、本講義では学生自身が理学療法において必要である運動学的知識や正常歩行に関する基礎知識を学ぶと共に、各種装具の種類や機能・構造、使用目的、適応等を理解できるようになることを目的とする。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 基本的な運動学的知識が習得できるようになる。
2. 正常歩行に関する基礎知識が習得できるようになる。
3. 装具の種類・使用目的や特性などを理解できるようになる。
4. 障害に応じた装具の選択・適合判定ができるようになる。

【教科書】日本リハ医学会監修：義肢装具のチェックポイント 第9版. 医学書院, 2021.

【参考書等】必要に応じて資料、参考文献を配付

【成績評価】■定期試験(100%) ☐小テスト ☐課題レポート ☐その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ           | 授業内容                                   | 教員名   |
|----|---------------|----------------------------------------|-------|
| 1  | ICFと装具学総論     | ICFの概念を用いて障害を捉え、装具療法の基本的な定義や目的などを学ぶ。   | 泰地 良博 |
| 2  | 運動学的基礎知識      | 重力、モーメント(内部・外部)、床反力などの運動学な基礎知識を学ぶ。     | 〃     |
| 3  | 正常歩行に関する基礎知識Ⅰ | J, perryの提唱したロッカーファンクションのメカニズムを学ぶ。     | 〃     |
| 4  | 正常歩行に関する基礎知識Ⅱ | 歩行周期別における床反力と筋活動の関係などを学ぶ。              | 〃     |
| 5  | 継手軸の理解と各種部品Ⅰ  | 足継手軸と解剖学的指標、固定、制限、制動などの意味を理解する。        | 〃     |
| 6  | 継手軸の理解と各種部品Ⅱ  | 膝・股継手軸と解剖学的指標、設置位置について理解する。            | 〃     |
| 7  | 代表的な下肢装具Ⅰ     | 短下肢装具の目的や特徴について学ぶ。                     | 〃     |
| 8  | 代表的な下肢装具Ⅱ     | 膝装具・靴型装具等の目的や特徴について学ぶ。                 | 〃     |
| 9  | 体幹装具          | 脊椎疾患の特徴と体幹装具の適応を学ぶ。                    | 〃     |
| 10 | 脊髄損傷と装具       | 脊髄損傷の疫学及び疾患特性を理解し、適応する装具を学ぶ。           | 〃     |
| 11 | 各種疾患と装具       | 脳性麻痺や整形疾患等の特徴を学び、各種適応される装具の特徴について理解する。 | 〃     |
| 12 | 脳卒中と下肢装具      | 脳卒中の病態を学び、長下肢装具や短下肢装具の特徴を理解する。         | 〃     |
| 13 | 生活期の脳卒中装具     | 生活期脳卒中者の装具使用の課題について理解する。               | 〃     |
| 14 | 装具装着下での運動療法Ⅰ  | 運動器疾患における装具使用者に対する運動療法の一例を学ぶ。          | 〃     |
| 15 | 装具装着下での運動療法Ⅱ  | 脳卒中者に対する下肢装具を使用した運動療法の一例を学ぶ。           | 〃     |

【授業時間外の学習】必ず予習や復習を行い十分理解した上で次の授業に参加すること。運動学など隣接する領域の学問とリンクさせながら予習や復習を行うこと。

【履修条件・注意事項】講義中は私語を慎み、積極的に参加し前向きに取り組むこと。

【科目名】義肢装具学

【教員名】泰地 良博

【教員の実務経験】☐有

■無(臨床経験豊富な理学療法士が臨床現場で特に役立つ知識と技術に関する講義を行う。)

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】切断者に対するリハビリテーションは、対象者のADL能力向上に不可欠なものである。そのため、学生自身が義肢に関する基礎知識と義肢の機能を理解し、切断者の身体機能評価に基づいた臨床推論や運動プログラムの立案について理解できることを目的とする。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 義肢の構造や構成部品、義足の種類等について理解を深めることができる。
2. 切断者に対する評価や理学療法士の行うべき運動療法や役割を理解することができる。
3. 義肢の適合判定・調整に関する基礎知識を学習することができる。

【教科書】日本リハ医学会監修：義肢装具のチェックポイント 第9版. 医学書院, 2021.

【参考書等】必要に応じて資料、参考文献を配付

【成績評価】■定期試験(100%) ☐小テスト ☐課題レポート ☐その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ                        | 授業内容                              | 教員名   |
|----|----------------------------|-----------------------------------|-------|
| 1  | 切断者の現況について                 | 疫学、切断の要因など一般的事項を学ぶ。               | 泰地 良博 |
| 2  | 断端管理、下肢切断の機能的特徴            | あらゆる断端管理方法を学び、切断部位別の特徴を学ぶ。        | 〃     |
| 3  | 切断者の禁忌肢位と義足の構成要素           | 股関節や膝関節に起こりやすい拘縮予防と義足の構成要素について学ぶ。 | 〃     |
| 4  | 大腿義足ソケットについて               | 四辺形ソケットと IRC ソケットの違いを学ぶ。          | 〃     |
| 5  | 大腿義足アライメント<br>(ベンチ、スタティック) | ソケットの適合と大腿義足のアライメントを学ぶ。           | 〃     |
| 6  | 〃 (ダイナミック)                 | 大腿義足歩行の異常なアライメントを学ぶ。              | 〃     |
| 7  | 下腿義足ソケットについて               | PTB、PTS、KBM、TSB などの特徴を学ぶ。         | 〃     |
| 8  | 下腿義足アライメント<br>(ベンチ、スタティック) | 下腿義足のアライメントを学ぶ。                   | 〃     |
| 9  | 〃 (ダイナミック)                 | 下腿義足歩行の異常なアライメントを学ぶ。              | 〃     |
| 10 | 股義足のアライメント                 | アライメント、ソケット、振り出し原理を学ぶ。            | 〃     |
| 11 | 上肢切断に関する基礎知識               | 上肢機能の複雑さと切断レベルの特徴を学ぶ。             | 〃     |
| 12 | 義手について                     | 切断レベルに応じた義手の特徴を学ぶ。                | 〃     |
| 13 | 下肢切断者の評価                   | 一般的な下肢切断者の評価を学ぶ。                  | 〃     |
| 14 | 模擬義足患者への義足の選択              | 模擬事例に対する義足の選択を学ぶ。                 | 〃     |
| 15 | まとめ                        | 後期授業のレビュー                         | 〃     |

【授業時間外の学習】必ず予習や復習を行い十分理解した上で次の授業に参加すること。運動学など隣接する領域の学問とリンクさせながら予習や復習を行うこと。

【履修条件・注意事項】講義中は私語を慎み、積極的に参加し前向きに取り組むこと。

【科目名】日常生活活動学

【教員名】藤井 奈美

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員がその経験を活かし、臨床に必要な日常生活活動についての概念と基本的日常生活動作方法の知識を教授する。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】実務経験のある理学療法士がその経験を活かし、臨床において必要な日常生活活動の評価や日常生活活動動作における指導方法について教授する。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 日常生活活動学の概念と範囲を理解できる。
2. ICFの概念を理解できる。
3. 日常生活活動の評価方法を学び正しく使用できる。
4. 日常生活活動における基本的動作方法や車椅子の操作方法を学び正しく使用できる。
5. 疾患の基本的日常動作方法の知識を習得し実際に実施することができる。

【教科書】

鶴見隆正ほか編：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第6版. 医学書院, 2021.  
千野直一ほか編著：実践リハビリテーション・シリーズ 脳卒中の機能評価 SIAS と FIM[基礎編].  
金原出版, 2012.

【参考書等】

柴喜崇, 下田信明編集：PT・OT ビジュアルテキスト ADL. 羊土社, 2015.  
臼田滋編：Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学. メジカルビュー社, 2020.  
千住秀明監修：理学療法学テキストV 日常生活活動(ADL) 第2版. 神陵文庫, 2007.  
細田多穂監修：シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第2版. 南江堂, 2014.

【成績評価】■定期試験(100%) ■小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ        | 授業内容                       | 教員名   |
|----|------------|----------------------------|-------|
| 1  | 総論         | ADL の概念や範囲を理解する (ICF 含む)   | 藤井 奈美 |
| 2  | 〃          | 〃                          | 〃     |
| 3  | 日常生活の評価    | ADL 評価 (Barthel Index) を学ぶ | 〃     |
| 4  | 〃          | ADL 評価 (FIM) を学ぶ           | 〃     |
| 5  | 〃          | 〃                          | 〃     |
| 6  | 〃          | 〃                          | 〃     |
| 7  | 〃          | 〃                          | 〃     |
| 8  | 〃          | ADL 評価 (IADL 評価) を学ぶ       | 〃     |
| 9  | 基本動作       | 車椅子や杖の名称と使い方を学ぶ            | 〃     |
| 10 | 〃          | 日常生活で行う基本動作・介助方法の基礎を学ぶ     | 〃     |
| 11 | 疾患別 ADL 指導 | 脳血管疾患の概要と ADL 動作の指導方法を学ぶ   | 〃     |
| 12 | 〃          | 〃                          | 〃     |
| 13 | 〃          | 〃                          | 〃     |
| 14 | 〃          | 〃                          | 〃     |
| 15 | 〃          | 〃                          | 〃     |

【授業時間外の学習】講義前に担当教員から指定された内容を確認し予習をしておくこと。また、授業後はその日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノ

ートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習及び復習には、各 1 時間程度要する。

**【履修条件・注意事項】**講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢（私語や受講態度）については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

**【オフィスアワー】** 毎水曜日 17 時から 17 時 30 分(本館事務室前)

【科目名】日常生活活動学

【教員名】藤井 奈美

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員がその経験を活かし、臨床において必要な日常生活活動動作における指導方法について教授する。)

□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】各疾患に対する日常生活活動動作の方法を習得し、実施できる技術を身に付けることを目的とする。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 各疾患の基本的日常動作方法の知識を習得することができる。
2. 各疾患の基本的日常動作方法を実際に実施することができる。

【教科書】

鶴見隆正ほか編：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第7版. 医学書院.  
千野直一ほか編著：実践リハビリテーション・シリーズ 脳卒中の機能評価 SIAS と FIM[基礎編].  
金原出版.

【参考書等】

臼田滋編：Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学 メジカルビュー社，2020.  
千住秀明監修：理学療法学テキストⅤ 日常生活活動(ADL) 第2版. 神陵文庫，2007.  
細田多穂監修：シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第2版. 南江堂，2014.  
岩崎洋著：脊髄損傷理学療法マニュアル 第3版. 文光堂，2020. (eBook)

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ        | 授業内容                   | 教員名   |
|----|------------|------------------------|-------|
| 1  | 疾患別 ADL 指導 | 脊髄損傷の評価                | 藤井 奈美 |
| 2  | 〃          | 脊髄損傷の ADL 指導           | 〃     |
| 3  | 〃          | 〃                      | 〃     |
| 4  | 〃          | 〃                      | 〃     |
| 5  | 〃          | 脳性麻痺の ADL 指導           | 〃     |
| 6  | 〃          | 関節リウマチの ADL 指導         | 〃     |
| 7  | 〃          | 〃                      | 〃     |
| 8  | 〃          | 変形性股関節症 (THA) の ADL 指導 | 〃     |
| 9  | 〃          | 〃                      | 〃     |
| 10 | 〃          | 下肢切断の ADL 指導           | 〃     |
| 11 | 〃          | 呼吸器・循環器疾患の ADL 指導      | 〃     |
| 12 | 〃          | パーキンソン病の ADL 指導        | 〃     |
| 13 | 〃          | 脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症の ADL | 〃     |
| 14 | 〃          | 多発性硬化症、筋ジストロフィーの ADL   | 〃     |
| 15 | 〃          | 中途視覚障害の ADL 指導         | 〃     |

【授業時間外の学習】講義前に担当教員から指定された内容を確認し予習をしておくこと。また、授業

後はその日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習及び復習には、各1時間程度要する。

**【履修条件・注意事項】**講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢（私語や受講態度）については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

**【オフィスアワー】** 毎水曜日 17 時から 17 時 30 分(本館事務室前)

【科目名】臨床理学療法学演習Ⅰ

【教員名】松浦 康

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、評価法と触診の技術を学生が臨床実習の場で実施できるよう演習を取り入れ教授する。)

□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】理学療法士に必要な疾患に応じた評価法と触診の技術を身につけることを目的とする。できるだけ多く演習を取り入れ、臨床で十分実施できるようにする。

【到達目標】学生は臨床において担当症例を的確に評価できる知識・技術の確認と表出技術が獲得できる。

【教科書】

潮見泰蔵，下田信明著：PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版．羊土社，2020.

吉尾雅春，横田和彦編集：標準理学療法学 運動療法学各論 第4版．医学書院，2017.

【参考書等】

津山直一，津山直一，中村耕三訳：新・徒手筋力検査法 原著第10版．協同医学出版，2020.

田崎義昭，斎藤佳雄著：ベッドサイドの神経の診かた 改訂第17版．南山堂，2010.

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

| 回数 | テーマ                 | 授 業 内 容         | 教員名  |
|----|---------------------|-----------------|------|
| 1  | 運動発達                | 運動発達検査Ⅰ         | 松浦 康 |
| 2  | 姿勢反射                | 姿勢反射検査Ⅰ         | 〃    |
| 3  | 脊髄損傷                | 診断および評価         | 〃    |
| 4  | 〃                   | 随伴症状と合併症        | 〃    |
| 5  | 〃                   | 評価のポイント         | 〃    |
| 6  | 〃                   | 運動療法の方法         | 〃    |
| 7  | 〃                   | 運動療法の留意点        | 〃    |
| 8  | 臨床応用                | 各疾患別評価Ⅰ         | 〃    |
| 9  | 〃                   | 各疾患別評価Ⅱ         | 〃    |
| 10 | 〃                   | 各疾患別評価Ⅲ         | 〃    |
| 11 | 〃                   | 各疾患別評価Ⅳ         | 〃    |
| 12 | 〃                   | 各疾患別評価Ⅴ         | 〃    |
| 13 | 〃                   | 各疾患別評価Ⅵ         | 〃    |
| 14 | 臨床技能試験<br>OSCE について | 臨床技能試験OSCEについて① | 〃    |
| 15 | 〃                   | 臨床技能試験OSCEについて② | 〃    |

【授業時間外の学習】授業実施日に復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。予習及び復習に各1時間程度を要する。実技を行うので、各自実技練習を行い、実習に生かす。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された資料及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】水曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

【科目名】地域理学療法学総論

【教員名】藤井 奈美、池住 祐哉

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員がその経験を活かし、臨床において必要な地域における理学療法について教授する。)

□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】地域理学療法概念や関連制度の知識を学ぶことで、実際に理学療法士がどのような場所で、どのような役割を担っているかを理解することを目的とする。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 地域理学療法概念を知り、理解できる。
2. 地域理学療法関連制度を知り地域における理学療法士の役割を理解できる。
3. 施設・訪問・通所系理学療法を学び、地域におけるサービスを知ることができる。

【教科書】浅川康吉編：Crosslink 理学療法学テキスト 地域理学療法学. メジカルビュー社, 2019.

【参考書等】適宜資料配付

東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験 2級 公式テキスト改訂7版.

牧迫飛雄馬、吉松竜貴編：最新 理学療法講座 地域理学療法学. 医歯薬出版株式会社, 2021.

【成績評価】■定期試験(80%) ■課題 (20%)

または 福祉住環境コーディネーター2級取得 (秀認定とする)

【授業計画】

| 回数 | テーマ      | 授業内容                    | 教員名   |
|----|----------|-------------------------|-------|
| 1  | 総論       | 地域理学療法について知る            | 藤井 奈美 |
| 2  | 福祉用具を知る  | 各種、福祉用具を知る (バリアフリー2025) | 〃     |
| 3  | 〃        | 〃                       | 〃     |
| 4  | 地域交流     | 介護保険領域の施設入所・入居について学ぶ    | 〃     |
| 5  | 〃        | 各施設に応じた連携方法を考え交流内容を検討する | 池住 祐哉 |
| 6  | 〃        | 〃                       | 〃     |
| 7  | 〃        | 〃                       | 〃     |
| 8  | 〃        | 各施設に応じた連携方法を考え交流する      | 藤井 奈美 |
| 9  | 〃        | 〃                       | 〃     |
| 10 | 〃        | 〃                       | 〃     |
| 11 | 〃        | まとめ                     | 〃     |
| 12 | 資格取得に向けて | 資格試験模擬演習                | 池住 祐哉 |
| 13 | 〃        | 〃                       | 〃     |
| 14 | 〃        | 〃                       | 〃     |
| 15 | 〃        | 〃                       | 〃     |

【授業時間外の学習】講義前に担当教員から指定された内容を確認し予習をしておくこと。また、授業後はその日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習及び復習に各1時間程度要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】毎金曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】地域理学療法学各論

【教員名】藤井 奈美、後藤 信吾(徳島車いすバスケットボールクラブメンバー)

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員と障がい者スポーツに従事する教員(後藤、徳島車椅子バスケットボールクラブメンバー)がその経験を活かし、臨床で必要な地域における理学療法と実際の障がい者スポーツについて教授する。)

□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位(60時間)

【授業概要と目的】前期で学んだ地域理学療法の知識を基に、実際にどのような地域理学療法が行われているかを知る。また、実際に行われている障がい者スポーツを体験することで、地域理学療法を実際に学ぶことを目的とする。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 実際にどのような地域理学療法があるかを学び理解することができる。
2. 実際に地域に触れることで地域で行われている理学療法について理解することができる。
3. 実際に地域理学療法を体験し、理学療法士の役割を学ぶことができる。

【教科書】浅川康吉編：Crosslink 理学療法学テキスト 地域理学療法学. メジカルビュー社, 2019.

【参考書等】資料配付

重森健太ほか編：PT・OT ビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版. 羊土社, 2019.

牧迫飛雄馬ほか編：最新 理学療法講座 地域理学療法学. 医歯薬出版株式会社, 2021.

日高正巳ほか編：理学療法アクティブラーニング・テキスト 地域理学療法学. 文光堂, 2022.

【成績評価】■定期試験(80%) □小テスト ■課題レポート(10%) ■その他(発表 10%)

【授業計画】

| 回数 | テーマ       | 授業内容                 | 教員名   |
|----|-----------|----------------------|-------|
| 1  | 制度        | 地域理学療法に関連する制度を理解する   | 藤井 奈美 |
| 2  | 〃         | 〃                    | 〃     |
| 3  | 〃         | 〃                    | 〃     |
| 4  | 地域理学療法の実際 | 小児・成人・高齢者・住民支援について知る | 〃     |
| 5  | 〃         | 〃                    | 〃     |
| 6  | 〃         | 〃                    | 〃     |
| 7  | 自分の地域を知る  | それぞれの地域にある介護保険関連を調べる | 〃     |
| 8  | 〃         | 〃                    | 〃     |
| 9  | 個別支援の技術   | ADL の拡大の視点・評価を学ぶ     | 〃     |
| 10 | 〃         | QOL の向上の視点・評価を学ぶ     | 〃     |
| 11 | 〃         | 行動変容の視点・実際を学ぶ        | 〃     |
| 12 | 〃         | 社会参加の促進技術を学ぶ         | 〃     |
| 13 | 〃         | 福祉用具の利用と住環境の整備について学ぶ | 〃     |
| 14 | 〃         | マネジメントの技術を学ぶ         | 〃     |
| 15 | 地域作りの技術   | 地域・住民への関わり方を学ぶ       | 〃     |
| 16 | 地域作りの技術   | 在宅生活への関わり方・技術について学ぶ  | 〃     |

|    |                     |                                                    |       |
|----|---------------------|----------------------------------------------------|-------|
| 17 | 介護予防の方法を<br>考える     | 実際に介護予防の視点・関わりを検討する                                | 藤井 奈美 |
| 18 | 〃                   | 実際に地域高齢者との関わりを実施する                                 | 〃     |
| 19 | 〃                   | 〃                                                  | 〃     |
| 20 | 〃                   | 〃                                                  | 〃     |
| 21 | 発 表                 | 実践方法を発表する                                          | 〃     |
| 22 | 地域の防災や<br>災害支援と社会貢献 | 災害時のチーム医療や理学療法士の役割を学ぶ<br>地域で求められるそれぞれの理学療法を学ぶ      | 〃     |
| 23 | 〃                   | 〃                                                  | 〃     |
| 24 | 障害者スポーツの<br>実際      | 日本の障がい者スポーツの現状と地域の障がい<br>者スポーツの現状ならびに制度を知る         | 〃     |
| 25 | 〃                   | 障がい者スポーツの施策を学ぶ                                     | 〃     |
| 26 | 〃                   | 全国障害者スポーツ大会の概要を主として学<br>び、地域のスポーツ振興についての理解を深め<br>る | 〃     |
| 27 | 車いすバスケット<br>ボールの実際  | 実際に車いすバスケットボールを体験し、障害<br>者スポーツについて理解を深める           | 後藤 信吾 |
| 28 | 〃                   | 〃                                                  | 〃     |
| 29 | まとめ                 | 車いすバスケットボールの経験をまとめる                                | 藤井 奈美 |
| 30 | 〃                   | 復習を含む重点ポイントの再確認                                    | 〃     |

【授業時間外の学習】事前に資料を配付・配信するため、予習をすること。また、授業後はその日に復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりに配付資料あるいはノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習に1時間、復習に2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢（私語や受講態度）については厳しく指導する。講義では、必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】毎金曜日 17 時から 17 時 30 分（本館事務室前）

【科目名】基礎評価実習

【教員名】臨床実習指導者

【教員の実務経験】■有(臨床実習指導者(理学療法士)が理学療法士に必要な知識および技術について指導を行う。)

□無

【授業方法】□講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年後期・2年前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位(1年後期 45 時間・2年前期 45 時間)

【授業概要と目的】実習期間は、1 年後期は 5 日間、2 年前期は 5 日間とする。学生は、見学体験実習で学んだ内容とその後の学習で理解した知識と技術を活かし、臨床実習施設において、臨床実習指導者(理学療法士)のもとで、理学療法士のより専門的な業務を見学・模倣し、将来理学療法士として患者に接する際に必要な実践的な知識・技術・態度を身につけることを目的とする。なお、実習形態は参加型とする。

【到達目標】学生は福祉の現場(通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション)を体験することにより、医療従事者としての規律の遵守と、その実習施設における事業体系や目的、およびリハビリテーションチームとしての役割を理解することができる。

【教科書】実習の手引き

【参考書等】なし

【成績評価】□定期試験 □小テスト □課題レポート ■その他(実習施設評価 80%、提出物 20%)

【授業計画】

| 実習名    | 実習期間                 |
|--------|----------------------|
| 基礎評価実習 | 令和 8 年 11 月中(5 日)    |
|        | 令和 8 年 6 月～7 月中(5 日) |

【授業時間外の学習】臨床実習指導者(理学療法士)に指導および指示された内容について予習と復習を行う。

【履修条件・注意事項】実習の手引き参照

【オフィスアワー】学校(担任)への電話連絡

【科目名】臨床評価実習

【教員名】臨床実習指導者

【教員の実務経験】■有(臨床実習指導者(理学療法士)が理学療法士に必要な知識および技術について指導を行う。)

□無

【授業方法】□講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・3単位(135時間)

【授業概要と目的】実習期間は3週間とする。臨床実習施設において、臨床実習指導者(理学療法士)のもとで理学療法評価を中心に、将来理学療法士として患者に接する際に必要な基本的知識・技術・態度を身につける。なお実習形態は臨床参加型とし、実習前後には学生の到達度を確認する学内実習も実施する。

【到達目標】学生は理学療法士としての適性能力や習得した基礎知識の確認、それに即した理学療法評価の実施(見学・模倣)と、その結果の記録が的確にでき、さらに理学療法評価プロセスと基本的評価技術を系統的に経験し、障がい評価を理解することを目的とする。

【教科書】実習の手引き

【参考書等】なし

【成績評価】□定期試験 □小テスト □課題レポート

■その他(実習施設評価 80%、学内実習評価 20%)

【授業計画】

| 実習名    | 実習期間          |
|--------|---------------|
| 臨床評価実習 | 令和8年11月中(15日) |

【授業時間外の学習】臨床実習指導者(理学療法士)に指導および指示された内容について予習と復習を行う。

【履修条件・注意事項】実習の手引き参照

【オフィスアワー】学校(担任)への電話連絡